

# 地域ケア会議 報告書

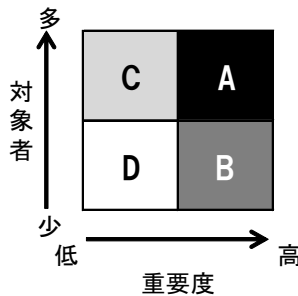
圏域包括名

南部地域包括支援センターケアタウン小牧

## 1. 地域課題

	内容	分類
①	認知症の独り暮らしのため消費者被害にあいやすい	A
②	認知症で独り暮らし 家族が遠方のため生活の現状を理解できない	A
③	認知症で独り暮らしのため緊急時の判断ができない	A
④	独り暮らしのため退院後の生活の不安が大きい	A
⑤	独り暮らしで視力障がい 家族が遠方 目が見えなくなる事への不安が大きい	B
⑥	認知症の独り暮らし 家族が遠方 (国外)	A
⑦	適切な時期に支援が受けられなかったため、公共施設が対応に困った	B
⑧	認知症で独り暮らし 集合住宅での関わりが困る	A
⑨	突然家族を失って一人になった後の生活の不安	A
⑩	古くからの住民と転入者の交流機会が少なく閉じこもりが増えていく	C

### 【分類の仕方】



#### A(対象者が多く重要度の高い課題)

:あらゆる機関が連携して、早急に対応しなければならない課題

#### B(対象者は少なくとも重要度の高い課題)

:個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

#### C(対象者は多いが重要度の低い課題)

:課題の優先度は低いが、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

#### D(対象者が少なく重要度も低い課題)

:現段階で解決策を見つけることで、最小限に食い止めることができる課題

## 2. 課題解決及び主体となる組織・団体

課題番号	解決策・提言	主体となる組織・団体
①④⑧	住民の見守り体制の構築と、相談機関の周知及び包括のPR	包括、行政、地域住民
②⑥	遠方の家族に現状を伝えるためITの活用など 手段づくり	行政
③	救急キッドの作成 普及啓発	行政
⑤	障がいのある方への声のかけ方を学ぶ機会	社協
⑦	公共施設への認知症サポーター養成講座	包括
⑨	わた史ノートの啓発	包括
⑨	アドバンスケアプランニングを支援者が学ぶ	行政、サポートセンター
⑨	アドバンスケアプランニングを住民が学ぶ	包括
⑩	地域の居場所 (サロン) の設置推進	社協
⑩	気軽に声を掛けられる地域づくり	地域住民

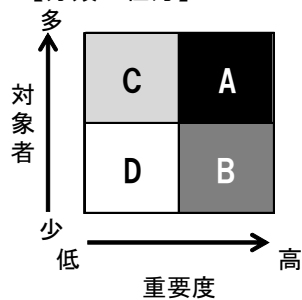
# 地域ケア会議 報告書

圏域包括名 小牧地域包括支援センターふれあい

## 1. 地域課題

	内容	分類
①	本人の安否確認ができない事で、近所の方が不安に思う・・・緊急時の連絡方法の周知ができない	A
②	地域で一人暮らしの方が増えてきた	B
③	台風など災害時の不安と避難行動支援者台帳の活用方法がわからない	A
④	周囲から見るとサロンへ行くと良いと思うが本人は他者との交流を望まなかったり、何らかの理由で参加が消極的	B
⑤	変化に気がついていても声がかかりにくい	A
⑥	認知症の方の支援体制を整える事や服薬管理をすることで、一人暮らしで認知症になっても住み馴れた自宅で暮らし続けることができる	A
⑦	閉じこもり防止となる集いの場がない	A
⑧	同地域内での困りごとの共有の場がない。足腰の弱り・・・外出の困難さにより閉じこもり	A
⑨	同地域内での困りごとの共有の場がない。足腰の弱り・・・買い物へ行けない	A
⑩	本人の役割、活躍の場作り	A
⑪	外国籍の方との共存	C
⑫	買い物等の移動手段がない	A
⑬	サロンの継続性と住民の理解度	A
⑭	サロンに繋がらない人やサロンに参加できなくなった方のその後の関わり	B
⑮	サロンへの移動手段	A

### 【分類の仕方】



#### A(対象者が多く重要度の高い課題)

：あらゆる機関が連携して、早急に対応しなければならない課題

#### B(対象者は少なくとも重要度の高い課題)

：個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

#### C(対象者は多いが重要度の低い課題)

：課題の優先度は低いが、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

#### D(対象者が少なく重要度も低い課題)

：現段階で解決策を見つけることで、最小限に食い止めることができる課題

## 2. 課題解決及び主体となる組織・団体

課題番号	解決策・提言	主体となる組織・団体
①②⑤⑩	日頃の地域における見守り体制の構築	地域住民
①②③	避難行動支援者台帳の活用と定着	地域住民
④	サロンへ参加できない方への体制の構築→出前講座等声かけができるきっかけ作り	包括・地域住民
①②③⑤	支援体制の見える化（一人暮らし・認知症）	地域住民
①	専門職と地域住民との関係づくり	包括・社協・地域住民
⑦⑨⑫⑬	地域の居場所（サロン）の設置推進	地域住民・社協
⑥	服薬管理見守りチームの体制づくりと早期発見	専門職・包括・薬剤師会・地域住民
⑧⑪	食の確保（安否確認 < 栄養改善）	行政
⑧⑪	買い物支援	行政
⑧⑪	スーパーへの働きかけ	行政・社協・地域住民
⑭	サロンの移動手段の確保	行政・社協・地域住民
①②③⑤	地区の組長の役割と意識作り	地域住民

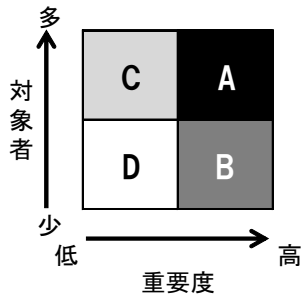
# 地域ケア会議 報告書

圏域包括名 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷

## 1. 地域課題

	内容	分類
①	障がいや高齢等“社会的弱者”が身近にいることを地域住民が知らない。また何に困っているかも分からない。(開催①)	A
②	地域の中での見守りの担い手や体制がない。(開催②③④⑤⑦⑧⑩)	A
③	老人会の担い手がおらず、存続が危うくなってきている(開催②)	B
④	地域が認知症への理解が不十分。また勉強できる機会がない。(開催③④⑦⑩)	A
⑤	要支援者台帳の登録者が増えており、管理をしている役員の負担が大きい(開催⑥)	B
⑥	近隣住民との交流や会話がな(開催②③⑤⑦⑨⑩)	A
⑦	気軽に集える場所が地域の中にない(開催⑥⑩)	A
⑧	緊急通報装置の設置が必要だが、高齢者のみ世帯であり、設置対象外である(開催⑧)	B
⑨	身体能力の低下から閉じこもり傾向になっている(開催⑥⑧⑩)	A

### 【分類の仕方】



#### A(対象者が多く重要度の高い課題)

: あらゆる機関が連携して、早急に対応しなければならない課題

#### B(対象者は少なくとも重要度の高い課題)

: 個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

#### C(対象者は多いが重要度の低い課題)

: 課題の優先度は低いが、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

#### D(対象者が少なく重要度も低い課題)

: 現段階で解決策を見つけることで、最小限に食い止めることができる課題

## 2. 課題解決及び主体となる組織・団体

課題番号	解決策・提言	主体となる組織・団体
①	障がい・高齢者が外出や買い物で何に困るのかを知り、学ぶ機会をつくる。 「ちよいぼら」という形で支援を行う体制づくり。	地域住民、地域協議会、市役所、社協、包括
①②③④⑥	・安否確認も含め、外出時など声をかけてくれる人がいる体制作り。 ・地域や商店等関係機関と連携することで情報共有ができ、安心して在宅生活を送れる地域作り活動に繋がっていく。	地域住民、商店、社協、包括
③	・老人クラブの人たちが地域を見守る体制をとっていただけるのは。 ・サロンの参加者及びボランティアの担い手確保。	地域住民、包括
①④②⑥	・地域住民や企業等へ、認知症サポーター養成講座や健康講話の開催、声かけ訓練を実施し認知症への理解・啓発活動 ・認知症見守りステッカー、認知症見守りネットワークの啓発	社協、行政、包括
⑤	災害時の対応方法の共有	地域住民、社協、包括
④⑦⑥⑨	地域の居場所（サロンや認知症カフェ等）の設置推進	地域住民、社協、包括
⑧	緊急通報装置設置に受益者負担（設置費の一部負担）の考えを導入し、対象者の要件を緩和	行政

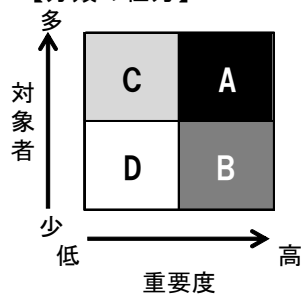
# 地域ケア会議 報告書

圏域包括名 篠岡地域包括支援センター

## 1. 地域課題

	内容	分類
①	商業施設に近い一番古い地区。高齢化の進行と独居高齢者が急増している。	A
②	元々地縁の関係があるが、認知症の理解が進んでいない。	A
③	今後の自身の生き方について誰に相談していいのかわからない一人暮らしの高齢者が増えてきている。	A
④	オレンジカフェしのおかむらの他に、妻の介護について悩みを相談する機会や場所がない。	A
⑤	県住には外国人が多い。言葉の壁などによる孤立や集合住宅のルールが守れない人が増えている。	B
⑥	集いの場は増えたか、集いの場の中でたんと今利用している人の認知症への対応が難しくなっている。	B
⑦	戸建てと集合住宅がほとんどつながりがなく、住民同士の接点が少ない。	A
⑧	長年働いてきて地域とのつながりがないまま高齢となって孤立を深めている人や、どう地域とつながればいいのかかわからない人が増えている。	B
⑨	地縁がある地域であっても顔は知っているが知り合えていない。何かあっても相談は難しい。	A
⑩	集合住宅の中で、障害や認知症を抱えた人、独居の人など、どこに誰が住んでいるかわからないため、関心が薄い。	A
⑪	認知症や難病を抱え、家族だけでは対応できないなどの困りごとを抱えた世帯が多くなる。	A
⑫	集いの場に参加しなくなると簡単に関係性が切れてしまう。ひとり暮らしの高齢者の生活実態が見えにくい。	A
⑬	認知症の症状が進むことにより、どれだけの介護負担がかかるかを予測できないため、予め家族で話しをしておくことができず、抱え込んでしまって身動きが取れない家族が増える。	A
⑭	不審者が入り込めない地域づくりのモデル地区づくり。	B

### 【分類の仕方】



#### A(対象者が多く重要度の高い課題)

: あらゆる機関が連携して、早急に対応しなければならない課題

#### B(対象者は少なくとも重要度の高い課題)

: 個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

#### C(対象者は多いが重要度の低い課題)

: 課題の優先度は低い、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

#### D(対象者が少なく重要度も低い課題)

: 現段階で解決策を見つけることで、最小限に食い止めることができる課題

## 2. 課題解決及び主体となる組織・団体

課題番号	解決策・提言	主体となる組織・団体
①	環境整備の実施。	市、社協、住民、 包括
②、⑥	インフォーマルサービスから他のインフォーマルサービスへつなぐ。情報開示。	住民、包括、 地域支え合い推進員
③	成年後見制度の申し立て。	市、包括、 権利擁護センター
④	認知症家族交流会の開催の必要。	住民、 認知症地域支援推進員
⑤	相談しにくい人の孤立予防のため、気軽に相談できる場（アピタの相談会）の開催。	協働実践会議委員、 包括
⑦	サロンを専門職が住民と関りを持てる場にしていく。	住民、専門職、包括、 地域支え合い推進員
⑧	オレンジカフェやアピタの相談会の周知と、そこにつなげてくれる人を増やす。	住民、包括
⑨	集いの場の受け入れの間口を広げる（住民による送迎、フォーマルとインフォーマルの関り）。	住民、専門職、包括、 地域支え合い推進員
⑩	活躍の場としての集いの場へのお誘い。	住民、包括、 地域支え合い推進員
⑪	なじみの間柄があることの強みを生かし、陶のオレンジカフェに家族そろって参加してもらうことで、より多くの人に知ってもらい、地域の中で見守っていく。	住民、 認知症地域支援推進員
⑫	集いの場に来なくなった方について、理由が不明な場合やひとり暮らし、物忘れのある方などの対応について、一緒に考えて実態を確認していく。	住民、包括、 地域支え合い推進員
⑬	意思表示ができるうちに、介護が必要になったときのことを予め家族で話し合い、合意を得ておく必要がある。サロンでわた史ノートの講話。	住民、包括
⑭	・サロンや老人会へ誘う。声をかけるだけでは忘れてしまうので、当日電話で誘ったり、迎えに行く。 ・ヘルパーやデイサービス送迎車以外の不審車両の気づき。	住民、専門職、包括

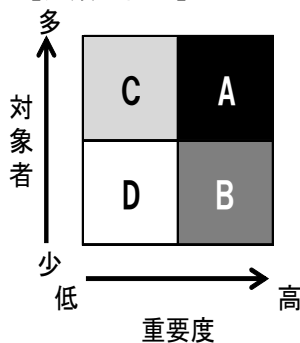
# 地域ケア会議 報告書

圏域包括名 北里地域包括支援センターゆうあい

## 1. 地域課題

	内容	分類
①	・認知症の地域の理解、本人との関わりの中で具体的な支援をどこまで得られるのか	A
②	・認知症、判断能力が低下している方の高齢者ひとり暮らし ・近くに支援する親族がない	A
③	・見守り対象の増加により、民生委員だけでは見守りは難しい	A
④	・移行型の任意後見契約の課題について ・明らかな認知症の周辺症状が現れているにもかかわらず、任意後見契約の発効（監督人の申し立て）がされない ・任意後見契約の発効時期の判断について ・任意後見人等他の専門職との連携	B
⑤	・権利擁護に関わる福祉職以外の専門職との視点の違いによる支援方針の不一致	B
⑥	・身元保証の団体の利用、生活上の必要性 ・精神疾患・被害妄想が強い独居の本人が正確に理解、利用が出来ない状況で、結果、利用の無いまま解約 ・身寄りがない方への身元保証・身元引受に関するマニュアル整備	A
⑦	・通院や買物への外出手段が不便	A
⑧	・認知症の周辺症状や判断能力が低下しているにも関わらず、自動車の運転を続ける ・周囲の注意にも自動車運転免許返納に応じない	B
⑨	・自動車運転が出来なくなると通院や買い物が出来なくなる ・通っていた馴染みの場所にも行けなくなり、地域との関わりが無くなってしまう	B
⑩	・歩いて行ける距離に、買い物できる店舗がない	A
⑪	・老人会の活動が縮小傾向。サロンもないので集いの場所がない	A
⑫	・これまで地域方との関係が良くなく、自治活動にも参加してこなかった ・地域とのつながりがなく孤立している	B
⑬	・主介護者が外国人のご家族であり制度理解やコミュニケーションが難しい	B
⑭	・持病があり、日中独居に不安がある	B
⑮	・高次機能障害の方の障害福祉サービスの利用 ・高次機能障害の方が就労希望があり、就労継続支援（B型）に利用するための支援	B
⑯	・60代の方のデイサービス等の介護保険サービス利用 ・他の利用者比べると年齢が若く、利用に抵抗があるが他の選択肢が少ない	B

### 【分類の仕方】



#### A(対象者が多く重要度の高い課題)

：あらゆる機関が連携して、早急に対応しなければならない課題

#### B(対象者は少なくとも重要度の高い課題)

：個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

#### C(対象者は多いが重要度の低い課題)

：課題の優先度は低いが、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

#### D(対象者が少なく重要度も低い課題)

：現段階で解決策を見つけることで、最小限に食い止めることができる課題

## 2. 課題解決及び主体となる組織・団体

課題番号	解決策・提言	主体となる組織・団体
①②③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>・地域の見守り体制や、理解への啓発</li> <li>・包括がサロンや老人会の出前講座時に啓発活動</li> <li>・民生委員の訪問時に包括も同席するなど支援のチームとしての連携を強化する</li> </ul>	地域住民 民生委員 包括
④⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括として移行型の任意後見契約について制度の理解をし、相談対応時に説明が出来るように備える</li> <li>・福祉職以外の専門職との連携が取れるよう関係の構築</li> <li>・双方に本人支援のチームの一員であることを、個別地域ケア会議や連絡調整の中で理解を求めていく</li> </ul>	包括 ケアマネジャー
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括は、身元保証の団体の利用について、その必要性を説明できるように備える</li> <li>・身寄りがない方への身元保証・身元引受に関するマニュアル整備</li> </ul>	行政 社協 包括
⑦⑨⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物のための移動支援に協力できるボランティア</li> <li>・民間、サービス事業所が地域貢献として移動支援が出来るのか検討をすすめる</li> <li>・スーパー等への移動販売について協力のはたらきかけ</li> </ul>	行政 社協 地域支え合い推進員 包括
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親族からの説得、自主返納に向けての支援</li> <li>・警察との連携。事前に相談をし、どのように本人に自主返納を促していけばよいか助言、協力を得る仕組みづくり</li> <li>・地域への免許自主返納の啓発</li> </ul>	行政 警察 包括 地域住民
⑪⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化する地域で、活動の維持が難しくなっている。多世代で地域の活動を維持、支える仕組みづくり</li> <li>・包括としては、活動が維持できるための出前講座や集いの場所の構築</li> <li>・サロンの設置や身近な場所で通える機会</li> </ul>	地域住民 地域支え合い推進員 包括
⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治活動に参加してこなかったこれまでの経緯があるものの、孤立に対して、少しでも見守りや声かけの協力を仰ぐ</li> <li>・サービス利用により関わる人、見守りを増やし、本人の不安を軽減していく</li> </ul>	区長・地域住民 民生委員 包括 サービス事業所
⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の主介護者に、通訳できる支援者を介して説明し、地域や専門職のチームが協力していることを理解してもらう</li> <li>・言語の課題から制度にうまくつながらない方への窓口設置</li> <li>・無料の通訳派遣</li> </ul>	行政 区長・地域住民 民生委員 包括 サービス事業所
⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方、友人に現状を理解いただき、見守り体制の構築</li> </ul>	地域住民 民生委員 包括
⑮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の就労の意欲がある段階で、スムーズに就労事業所の利用に繋がれるよう支援チームで連携を取る</li> <li>・行政での手続きが本人支援の視点で行えるよう柔軟な対応</li> </ul>	行政 社協 ケアマネジャー 包括 就労事業所